

平成30年度 第3学年 授業改善プラン

教科	観 点	課 題	指導の視点	具体的な手立て・改善策
国語	国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字の定着が不十分である。</li> <li>・伝えたい事を簡潔に文で書き表すことが不十分である。</li> <li>・文章を正しく読み取ることが不十分である。</li> <li>・言葉の決まりを理解した上で文を読み取ることが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文中で既習の漢字を意識して使えるようにする。</li> <li>・文章の構成を理解し、短く簡潔な文で表すことができるようにする。</li> <li>・文章の構成を理解し、どこに伝えたい中心があるのかを読み取ることができるようにする。</li> <li>・言葉のきまりを理解し、使えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習での取り組み、定期的なテストを行うとともに、書く場面では、既習の漢字を書くよう声かけする。</li> <li>・伝えたい事を簡潔に幾つかの文にして表す練習をする。</li> <li>・朝学習などを活用し、短い文章を短時間で読み取る練習を入れる。</li> <li>・実際の場面を想定し活用したり、言葉の決まりを繰り返し練習し、定着を深める。</li> </ul>
	話す・聞く能力			
	書く能力			
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が教えたことや自分で調べたことには興味をもつことができるが、そこから更に疑問をもって追究することができていない児童が多い。</li> <li>・資料の活用、読み取りは、慣れていないため、不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちに関わりのある事象に対する関心を持ち、自ら学ぶ意欲をより高められるようにする。</li> <li>・知識や技能を確実に身に付けられるようにする。</li> <li>・資料や問題を正確に読み取る力を身に付けられるようにする。</li> <li>・方角を確実に身に付けるようにする。</li> <li>・学習課題を推論する力を身に付けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書以外にも関係のある資料を提示し、様々な視点から考えることができるようにする。</li> <li>・クイズ作成や問題づくりを通して理解を深める授業を取り入れる。</li> <li>・地図やグラフ、写真から気付くことを交流したり、資料を比較して見たりして、資料の見方を指導していく。</li> <li>・資料や問題を読むときに視点を与えることでより正確に読み取ることができるようにしていく。</li> <li>・学習事項を日常的に活用し、用語に慣れるようにする。</li> <li>・社会的事象においては、予想をたて、資料や見学から、わかったことをまとめるという学習過程を意識させ、思考を深める工夫をする。</li> </ul>
	社会的な思考・判断・表現			
	観察・資料活用の技能・表現			
	社会的事象についての知識・理解			
算数	算数への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の場面をテープ図(線分図)で表し、求める数を口として式を立てることが苦手である。</li> <li>・1時間は60分ということがわかっても、時間や時刻を求める問題ができない。</li> <li>・図形や図形の構成要素の名称をきちんと言えない児童がいる。</li> <li>・かけ算九九の定着が不十分で、繰り上がり、繰り下がりのある計算が苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の場面をテープ図(線分図)で表し、口を使って立式するよさに気付かせる。</li> <li>・時間、時刻を求める問題を、数学的な考え方を育成する問題の一つととらえる。</li> <li>・図形や図形の構成要素についての理解を確実にする。</li> <li>・基礎的な計算技能の定着を図る。</li> <li>・長文の問題を読みこなし、課題について数学的に考えを進められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の場面をテープ図で表し、口を使って立式して問題を解くことを授業で多く設定することで、視覚的に問題構造がわかるよさに気付かせる。</li> <li>・時間、時刻を求める問題を適宜出題し、解き方について教え合わせることで、時間、時刻を求めることができるようにする。</li> <li>・図形や図形の構成要素の名称を教室に掲示したり、適宜復習したりする。</li> <li>・かけ算九九は、たし算ひき算の技能については、練習問題により、適宜復習をして定着を図る。</li> <li>・相互に関連するような長文の問題を意図的に設定し、問題解決的な学習の過程で児童に話し合わせることで、数学的な考え方を身に付けさせていく。</li> </ul>
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解			
理科	自然事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象など、日常生活との関わりから課題を設定することが難しい。</li> <li>・身の周りの事象を科学的に考える機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の見慣れた事象を科学的な視点から捉え直し、思考力・判断力を高めることができるようにする。</li> <li>・身近な自然について、差異点・共通点はどこかという視点から常にもちながら、事象について考える力を身に付けさせる。</li> <li>・図表を含めて、問題を読み解く力を身に付けられるようにする。</li> <li>・実験器具の操作経験を増やし、体験的な学びから、知識・理解面、技能面の学力を定着できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習を計画的に取り入れる。児童の日常生活で見慣れている事象に焦点をあてた問題を提示したり、児童がより科学的に考えられるきっかけとなる「どうして？」を大切に発問を工夫する。</li> <li>・一つの事象に対して、ワークシートにおける観察を継続して行ったり、関連した資料を提示したりすることで、児童が比較・検討し、差異点・共通点を見出すことができるよう工夫する。</li> <li>・実験においては、予想をたて、実験結果を出し、そこから一般化できることをまとめるという学習過程を意識させ、思考を深める工夫をする。</li> <li>・普段から、身の周りの事象に対して、差異点・共通点はどこかという視点を与えて観察や実験を行うことで、問題を読むときにも視点をもって読むことができるようにする。</li> <li>・実験の授業では、器具をできるだけ多く確保し、ペアでの実験ができるようにして、操作経験を増やせるようにする。</li> </ul>
	科学的な思考・表現			
	観察・実験の技能・表現			
	自然事象についての知識・理解			
音楽	音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、曲想に合った歌い方や声の出し方に気を付けて歌うことに個人差がある。</li> <li>・器楽では、リコーダーの基本的な奏法を身に付けていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞により、曲の感じをつかみ、その曲のよさを引き出すための歌い方や声の出し方があることを知る。更に、工夫することのおもしろさを感じ取らせる。</li> <li>・ルール確立と継続的な指導及び分かりやすい教材や教具の準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模範CDなどにより、鑑賞をして曲想を感じ取らせる。曲想を味わった後、どのように歌えればよいか、クラスで共通理解を図る。その後、表現の工夫をしていく過程で、少しずつ曲に合った歌い方や声の出し方を身に付けていく。</li> <li>・リコーダー指導時のルールを明確に示す。タンギングや姿勢も毎時間確認をする。タンギングや息を工夫することで、リコーダーの音色が変わることに気付かせ、楽しみながら演奏できるように指導する。</li> </ul>
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			
図画工作	造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に指示をしているときに話を聞けない児童が多い。また、先を見通して動こうとするが、教師の指示を聞かずに判断し、間違った見通して動いている児童も見られる。</li> <li>・自分の作品を最後まで仕上げる粘り強さが弱い児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の話を聞く態度を育てることで、正しい見通しで授業に参加ができるようになる。</li> <li>・どうすれば作品がよくなるのか、ヒントを与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の徹底を図るとともに、最後まで話を聞くことを特に強調する。</li> <li>・質問されたときには具体的な場所を示して「こうすればよくなるのでは」という提案をしたり、自分で考えさせるなど、場面に応じた支援を行う。</li> <li>・めあては提示するだけでなく、一緒にめあてを確認したり考えたりする場面をつくる。</li> </ul>
	発想や構想の能力			
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗大・微細運動をはじめとする体全体を連動させた動きが苦手な児童がいる。</li> <li>・器械運動やボールゲームの用具の扱いなどの技能面での個人差が大きい。</li> <li>・友達と協力して活動できる児童が少ないため、安全な場の準備ができなかったり、ルールをもとに集団として楽しく活動できなかったりする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能を確実に身に付けることができるようにする。</li> <li>・器械運動や道具の使い方など、確実に身に付けることができるようにするとともに、意欲的に活動できるように、友達の良いところを認め合うなどし、コミュニケーション能力を高めることができるようにする。</li> <li>・ルールや内容の簡易化を図り、どの児童にとっても分かりやすく学習意欲の高まる活動を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーショントレーニングや体づくり運動を通して、体の多様な動きを身に付けさせる。</li> <li>・学習カードや映像資料で動きのポイントを示す。</li> <li>・友達の動きのよさやそこから学んだコツを自分の動きに生かせるように共有する時間をつくる。</li> <li>・ホワイトボードを活用し、毎回の授業の流れを提示する。また、ルールを可視化することで視覚的に児童に伝えられるようにする。</li> </ul>
	運動や健康・安全についての思考・判断			
	運動の技能			
	健康・安全についての知識・理解			